

## 外 国 語

### 1 学習指導の改善・充実

#### (1) 改善の基本方針

外国語においては、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導の充実が求められている。

その上で、文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図ること、コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう指導すべき語数の充実を図ること、そして、中学校で学習した事柄の定着を図り、高等学校における学習に円滑に移行させるために必要な改善を図ることなど、改善の基本方針が示された。

#### (2) 指導の充実を図る視点

学習指導要領の改善の基本方針を踏まえ、特に次の4点に留意する必要がある。

ア 「聞くこと」や「読むこと」など理解の能力に関わる受信型の指導ばかりではなく、学んで得た知識を活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができる表現の能力の育成が強く求められており、4技能を総合的に育成する指導を通じて生徒が4技能を統合的に活用できるよう、言語活動を充実させること。

イ 文法指導を言語活動と一体化して行ったり、授業を英語で行ったりすることを通して、受信だけではなく発信にも活用できる知識や技能の習得を図ること。

ウ 授業において、観点別による分析的な評価を、生徒へのフィードバックや個別の支援のための情報として活用することで、よりきめ細かい指導や生徒の学習意欲の向上へとつなげること。

エ 外国語科の指導を効果的に行うには、指導目標に関する教員間の共通理解と協力体制を構築するため、観点別、4技能ごと、さらに学年別、学期ごとに具体的な到達目標と評価規準を設定すること。

### 2 評価方法の改善・充実

#### (1) 観点別評価の必要性

##### ■ 高等学校外国語科の目標の3つの柱

柱① 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深めること。

柱② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうする態度を育成すること。

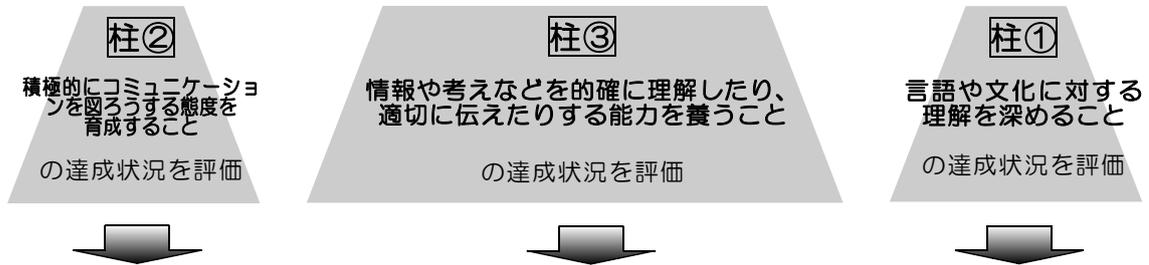
柱③ 外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を養うこと。

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた指導を一層充実させるためには、観点別評価の実施が重要な意味をもつ。観点別評価は、上記の「高等学校外国語科の目標の3つの柱」の達成状況を、内容のまとまり（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」）ごとに分析的に評価し、指導に役立てるための目標に準拠した評価であり、柱①は「言

語や文化についての知識・理解」、柱②は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、柱③は「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の観点により、その達成状況を評価するものである。

■ 学習指導要領の目標の達成状況を評価する際の考え方

① 高等学校外国語科の目標の3つの柱の達成状況を評価する。



② 3つの柱の達成状況を4つの観点で評価する。(下は「コミュニケーション英語I」の評価の観点の趣旨)

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

③ その際、さらに「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の技能ごとに、分析的に評価する。

聞くこと	「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。		英語を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言語の背景にある文化を理解している。
読むこと	「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	聞き手に伝わるように、英語で音読することができる。	英語を読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言語の背景にある文化を理解している。
話すこと	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	情報や考えなどについて、英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。		英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言語の背景にある文化を理解している。
書くこと	「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	情報や考えなどについて、英語で簡潔に書くことができる。		英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言語の背景にある文化を理解している。

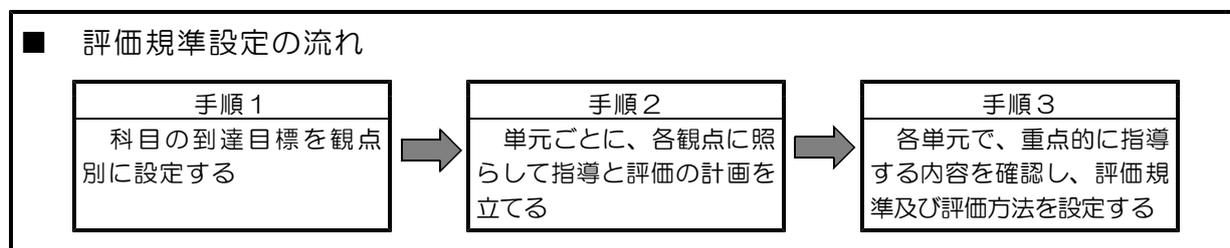
● CAN-DOリストについて ● 「CAN-DOリスト」とは、4技能ごとに「～できる」という記述で示しているリストのことである。これについては、「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」（平成23年6月30日 外国語能力の向上に関する検討会）において、提言1「生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握する。」の具体的施策として示されている。具体的には、「各学校が、学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定・公表するとともに、その達成状況を把握すること」とされている。

観点別評価を行う際のポイントは次の3点である。

- 1 学期や学年を通じて「外国語理解の能力」と「外国語表現の能力」双方において、計画的にバランスよく行うこと
- 2 「言語や文化についての知識・理解」については、単に知識を暗記しているといった評価規準ではなく、コミュニケーションを目的とした言語運用に資する形で身に付いているかを問う評価規準を設定すること
- 3 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」は、生徒が言語活動に積極的・主体的に取り組むことがコミュニケーション能力を身に付ける上で不可欠であるため、易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて生徒の「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の高まりを目指した指導をすること

## (2) 評価規準の設定

外国語科の目標と各科目の目標との系統性に留意しながら、各科目の年間計画、単元の目標や内容、学習活動を明らかにすることが大切である。評価規準の設定に当たっては、各科目で示されている指導する内容が、指導の結果としてどの程度身に付いたかを評価できるようにするため、次の手順で評価規準を設定することが大切である。



## 3 学習評価の具体例（コミュニケーション英語Ⅰ）

ここでは、主に「書くこと」や「話すこと」の言語活動を通して、「話すこと」の評価を重点的に行う例を示す。なお、1単元で必ずしも4観点、4技能の全てについて評価するのではなく、年間を通してバランスよく指導され、評価されることを前提としている。

### (1) 単元の指導と評価の計画（全7時間）

観点別評価や評定につながる評価（総括的評価）に関わる部分を中心に示す。

1 単元名 Travel around the world!		<b>①「単元の目標」を設定する。</b> ※学習指導要領の目標と内容を踏まえる	
2 単元の目標 ・ペアでの質疑応答やグループでの発表活動に積極的に取り組む。 ・写真ついて、キーワードを記したメモを使って口頭で説明する。 ・事物に関して紹介している対話を聞いて、事実と意見を区別しながら概要を理解する。 ・聞き手に分かりやすく伝えるために必要な表現方法についての知識を身に付ける。			
3 単元の評価規準 ※（ ）内の記述は便宜上の表記			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度 （関・意・態）	外国語表現の能力 （表現）	外国語理解の能力 （理解）	言語や文化についての知識・理解 （知・理）
ペアでの質疑応答やグループでの発表活動に積極的に取り組んでいる。	写真について、キーワードを記したメモを使って口頭で説明したり、自分の考えを伝えたりすることができる。	事物に関して紹介している対話を讀んだり、聞いたりして、事実と意見を区別しながら概要を理解することができる。	聞き手にわかりやすく伝えるために必要な表現方法についての知識を身に付けている。

### ②「評価規準」を設定する。

※観点ごとに設定し、「おおむね満足できる」状況を示している。

4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は、主人公の男性が大学を卒業したあとに世界各国を旅行したことについて書かれている。主人公の言動や行動、見聞したことなどを理解する力を養うとともに、学習した表現を利用しながら分かりやすくプレゼンテーションを行う力を養う。</p>			
5 指導と評価の計画(全7時間)			
時間	ねらい、学習活動	単元の評価規準	評価方法
第1次 (4時間)	<p><b>【ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事物に関して紹介している対話を読んだり、聞いたりして、事実と意見を区別しながら概要を理解する。</li> </ul> <p><b>【学習活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師のオーラル・イントロダクションを聞いたり教師からの質問に答えたりするなどして、筆者についての情報を得る。</li> <li>・ 必要に応じて、語、連語、慣用表現及び文構造について、意味や用法を確認する。</li> <li>・ ワークシートに示された概要把握のための質問を見てから本文全体を読み、解答に必要な情報についてメモをとる。</li> <li>・ ペアでQ-Aを行い、内容を確認する。</li> </ul>	<p>この評価方法は、(2)「観点別評価の進め方」の「言語や文化についての知識・理解」を参照。</p> <p>知・理</p>	<p>筆記テスト(後日)</p>
第2次 (3時間)	<p><b>【ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真について、キーワードを記したメモを使って口頭で説明したり、自分の考えを伝えることができる。</li> </ul> <p><b>【学習活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を読んで、ワークシート上のSummary Chart(要約を書き込むフローチャート)を完成させる。</li> <li>・ 単元の内容と関連する話題を扱った写真について、説明するためのメモを作成する。</li> <li>・ メモを見ながら、ペアになって写真について説明する。</li> <li>・ その写真についての自分の考えを伝える。(Photo Language)</li> <li>・ その後、クラス全体に、同じ写真について説明し、教師からの質問に答える。</li> </ul>	<p>関・意・態</p> <p>表現</p> <p>表現</p>	<p>活動の観察及びワークシート</p> <p>活動の観察</p> <p>質問</p> <p>上2つの「表現」の評価方法は、(2)「観点別評価の進め方」の「外国語能力の表現」を参照。</p>

**③ 評価規準を「指導と評価の計画」に位置付ける。**

※評価時期や評価方法などについて、指導と評価の計画を作成する。

**④ 評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする。**

※どんな評価資料を基に、どのような(「おおむね満足できる」状況等の判断の)目安で評価するかを考える。

**授業を行う。**

**⑤ 観点ごとに総括する。**

※集まった評価資料やそれに基づく評価結果(A、B、C)などの基礎情報に、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を記録する。

## (2) 観点別評価の進め方

ここでは、「外国語表現の能力」の評価の観点を取り上げ、具体的な評価の進め方についての例を示す。

「外国語表現の能力」	<p>評価規準① 写真について、キーワードを記したメモを使って口頭で(話すこと)説明する。</p> <p>評価規準② 口頭で自分の考えを伝えることができる。(話すこと)</p>
1 評価の方法	Photo Language(単元の内容と関連する話題を扱った写真について口頭で説明する)の活動の観察及び内容に関する質問
2 評価の手順	<p>写真について、キーワードを記したメモを使って口頭で説明したり、自分の考えを伝えることができるかを判断するために、次に示すようなタスクを与える。</p> <p>(1) 事前に用意した写真の中から、生徒に興味・関心のある写真を1枚選ばせる。</p>

(2) 写真について説明するための準備時間を与える。説明に当たっては、事実に基づく必要はなく、想像した内容を伝えてもよいことを生徒に伝える。また、説明する際は、写真に収められている人物やものなどについて2つ以上触れることを指示する。

(3) 生徒はペアになり、それぞれが選んだ写真について、口頭で説明を行う。

(■ 説明の内容 ← 評価規準①)

(4) 生徒は、パートナーに説明した内容を、クラス全体にも伝える。

(5) 教師やALTは、それぞれの説明について質問をし、生徒の考えを言わせる。

(■ 生徒個人の考え ← 評価規準②)

### 3 評価の具体例 (S: は生徒の発話例、T: は教師の発話例を示す。)

生徒の活動を観察し、目標への到達度の評価を行う際は、「おおむね満足できる」状況 (B) を中心に、それより質的に高まりが見られるものを「十分満足できる」状況 (A)、評価規準を満たしていない場合には「努力を要する」状況 (C) と判断する。

#### ■ 口頭説明の評価 (評価規準①) の具体例

##### ○ 「十分満足できる」状況 (A) の例

S: Hi, I'm going to tell you about this picture. You can see some women. They are mothers. Every day they have to bring water from the well. Bringing water is women's role. Water is used for drinking, cooking and bathing. It's necessary for people there to live in a daily life.



(評価のポイント)

・文法・語法等の誤りが少なく、多様な表現を用いて適切に内容を伝えることができています。

##### ○ 「おおむね満足できる」状況 (B) の例

S: Hi, I'm going to tell you about this picture. There are some womans. They wear colorful clothes. They are having a pod in the river. They are working to bring water.

(評価のポイント)

・文法・語法等の誤りはあるが、3つの事物を全て入れて、おおよその内容を伝えることができています。

#### ■ 生徒個人の考え (評価規準②) の具体例

問 What do you think about this picture?

##### ○ 「十分満足できる」状況 (A) の例

S: I was surprized to know there is still a country where they have no water supply. We should do something to help them.

(評価のポイント)

・文法・語法等の誤りが少なく、多様な表現 (下線部) を用いて適切に内容を伝えることができています。

##### ○ 「おおむね満足できる」状況 (B) の例

S: I think It's important people to bring home water .

(評価のポイント)

・文法・語法等の誤りはあるが、写真についての感想や自分の意見 (下線部) について、おおよその内容を伝えることができています。

「努力を要する」状況 (C) の生徒への手立て

描写したり、自分の考えを伝えたりする際に用いる定型文を示し、別な写真を示して、今度は口頭ではなく、英文を書かせて同じタスクに取り組ませる指導が考えられる。

その際に、生徒の表現しようとする意欲に配慮しながら、文法的な誤りを一度に全て指導するのではなく、ポイントを絞って指導することが大切である。

「言語や文化についての知識・理解」

評価規準③ 自分の考えや気持ちを伝える表現の使い方を理解している。

1 評価の方法

筆記テスト（後日、定期考査を実施する。）

全ての観点を、授業の中で、評価する必要はありません。

2 評価の手順

単元で扱った関係代名詞 who の文構造についての理解の状況を判断するために、次に示すような筆記テストを実施する。

3 評価の具体例

「言語や文化についての知識・理解」の評価については、定期考査等において筆記テストにより行われることが多い。この際、できる限り言語の使用場面や働きを意識した問題を用いて評価し、定着の程度に応じてABCの評価を行うようにする。

■ 関係代名詞 who の文構造（評価規準③）の具体例

問：次の写真を見て「～している男の子は…です。」という英文を、関係代名詞whoを用いて書きなさい。



○「十分満足できる」状況（A）の例1

The boy who is looking for deer is my son.

○「十分満足できる」状況（A）の例2

The boy who is watching eclipse is my brother.

(評価のポイント)

・文法・語法等の誤りが少ない。

○「おおむね満足できる」状況（B）の例

The boy who wants see far place is me.

(評価のポイント)

・文法・語法等の誤りはあるが、関係代名詞whoの使い方は理解している。

「努力を要する」状況（C）の生徒への手立て

英語で表現する意欲を高めることに配慮しながら、表現する機会を多く与える。その中で、文法的な誤りを自分で気付かせるよう、指導することが大切である。

## Topic

### 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための工夫

今回の学習指導要領の改訂では、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導について新たに示されており、学校や生徒の実態等に応じて、教育課程を編成することが大切である。

○「コミュニケーション英語基礎」（標準単位数2単位）を1単位で行うことは可能

中学校における学習内容の定着を図ることを目的として「コミュニケーション英語基礎」を、必修科目である「コミュニケーション英語Ⅰ」の前に履修させることが考えられる。この場合、「コミュニケーション英語基礎」は、1単位に減じて履修させることも可能である。

具体的には、1年次の前半で「コミュニケーション英語基礎」を履修させた後に、後半に「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修させるなどといった教育課程上の工夫を、学校や生徒の実態に応じて行うことが大切となる。

○「コミュニケーション英語Ⅰ」の標準単位数を増加することも可能

「コミュニケーション英語Ⅰ」の標準単位数を増加して行うことも考えられる。その際、1年次で単位数を増加できない場合には、2以上の連続する年次で履修させるなどの工夫を行うことが考えられる。